

情報交換及び地域の学習を通して、小中4校の望ましい連携のあり方を探る

I 主題設定の理由

同じ地域に学ぶ子どもの教育に携わるという立場で、共通課題を確認し、臨地研修・講演会・授業参観を通して系統的によりよい指導が行えるよう本主題を設定した。

II 研究の内容

1 第1回交流研究会（臨地研修）

- (1) 日時 平成29年8月4日（金）13：30～
- (2) 目的 地域の地場産業であるワイン工場を見学、原料のぶどう栽培からワイン造りに至るまでの製造過程やワイン造りへの情熱について学び、地域教材として授業に生かす。
- (3) 内容 白百合醸造株式会社において、郷党地域のワインづくりの歴史や地形の特色、製造過程等の説明を聞くとともに、工場やブドウ畑の見学を通して学んだことを教育活動に活かす。

2 第2回交流研究会（講演会）

- (1) 日時 平成29年11月22日（水）15：30～（於 加納岩小学校）
- (2) 目的 特別な支援を要する児童生徒に対して、学級や学校でどう対応していくとよいか、具体的な事例を参考に学ぶ。
- (3) 内容 演題「先生が変われば、子どもも変わる」とし、甲府支援学校小学校教諭の寺西修先生を講師にお迎えし、子どもたちの支援をするためには、子どもの行動の原因を明確にすることが大切とお話していただいた。

3 第3回交流研究会（山梨南中学校授業参観及び情報交換会）

- (1) 日時 平成30年1月17日（水）14：00～
- (2) 目的 中学校の授業を参観し、小中の連携の視点から学力向上やそれに伴う学級での取組などについて、意見を交換し合い、今後の教育活動に生かしていく。
- (3) 内容
 - ア 授業参観 第1学年（国語、社会、英語、体育）
第2学年（国語、数学、理科、音楽）
第3学年（社会、数学、英語、理科、家庭科）
 - イ 情報交換会
 - ・各校の家庭学習の取組を含む学力向上に関する取組について
 - ・授業の感想、児童生徒の様子について

Ⅱ 成果と課題

1 成果

- ・臨地研修では、白百合醸造株式会社を見学した。社長である内田多加夫氏から、ワインづくりの歴史や、峡東地域の地形の特色、ワインの製造工程などについて貴重な資料や映像をもとに詳しく説明していただき、工場やブドウ畑も見学した。学区の近くにありながら、本工場を見学することが初めての先生も多く、よい機会となった。説明の折りに視聴した映像は、峡東地域でのワインづくりが盛んになり始めた頃の貴重なもので、峡東地域の地場産業の歴史について、より深く知る機会となった。また、地域の人材活用や郷土学習の視点からも、大変参考となる研修であった。
- ・講演会では、甲府支援学校小学部教諭の寺西修先生から「先生が変われば、子どもも変わる」という演題で感覚統合理論について、演習を交えて指導していただいた。発達障害の児童生徒に対して、学級や学校でどう対応していくとよいか、具体的な事例を参考に、対応方法などを分かりやすく説明していただいた。資料やワークシートを提供していただき、子どもの気持ちを理解することの大切さを学んだ。
- ・講演会は、問題を抱える児童生徒の見方に新たな視点をプラスするような内容で、児童生徒理解に非常に役立つ内容だったので、来年度もより共通した児童生徒理解が促進されるような内容の講演会を実施していきたい。
- ・山梨南中学校の授業参観では、全学年で授業公開をし、参観者は自由に中学校の授業や生徒の様子を参観した。様々な教科の授業を提供してくださったので、大変興味深いものになった。また、各小学校から進学した生徒の様子も参観できたことは、子どもたちの成長を垣間見られるよい機会となった。授業参観後には、3つのグループに分かれ、家庭学習の取組の様子や全国学力・学習状況調査の結果などについて、それぞれの小中学校の先生方にお話ししていただいた。また、授業の感想や児童生徒の様子などを伝え合う中で、今後小中学校で共通して取り組むとよいことや参考にしていきたいことなどを確認し合うことができた。

2 課題

- ・小中の教職員が一堂に会する機会ではあったが、より深まりのある話し合いまでいけなかったことが残念な点ではある。小中で連携して取り組むことが望ましい子どもの育成につながる大切な機会なので、今後、課題をもとに小・中同士で意見交換する機会が増えると、さらに効果的なものになると感じた。

そして、普段から各校の研究主任と連絡を密にとることで、小中学校の情報のやりとりが増え理解が深まると考える。また、ブロック交流会の企画や運営等の負担を軽減することにつながるのので、日頃からの交流をより多くしていくことが大切であると感じた。

(ブロック長 小林 みずほ)